

「私たちは決して揺り動かされない」

～人類全体を勝利へと導かれた主～

「見よ、わたしはシオンに、選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、決して、失望に終わることがない。」ペテロの第一の手紙2章6節

上記の言葉は、ペテロが旧約聖書イザヤ書28章16節のこぼを引用したものです。この言葉はローマ書でパウロも引用しています。しかし、そのイザヤの時代には、この「隅のかしら石」がイエス・キリスト様ご自身を表現しているということははっきりとは分かりませんでした。そのことをペテロやパウロは確信をもってこのこぼはイエス様を指して語られたということを明言しました。これは人間の知恵ではなく、聖霊様からの知恵であることがよく分かります。

いよいよ、オリンピックが開幕します。今までの歴史の中で、これほど生みの苦しみを経て開催するオリンピックがあったでしょうか。菅首相の内閣支持率も過去最低を記録していますが、そんな底辺スレスレを動きながらのオリンピックは不安で一杯であると思います。オリンピックはスポーツの祭典ですが、各選手たちは、国家の威信をかけて勝利の栄冠をつかむために参加します。しかし、オリンピック自身が勝利しているのか？コロナの前に敗北しているのではないか？人類全体が敗北宣言を突き付けられているかのような状況でもあります。

人類全体を勝利に導くために約2000年前、イエス様は全能の神であられたにも関わらず、ご自身のお立場を捨てて、この地上に人間としてやって来られました。そして、十字架の上で、「テテレスタイ(ギリシャ語:勝利した！成し遂げた！罪の負債は支払われた！人類は罪の奴隷から救い出された！)！」と宣言されました。その証拠に、主イエス様は三日目に敗北の象徴である「死」を打ち滅ぼして、永遠の命—勝利の命へとよみがえられました。

今回の黙示録の12章では、その勝利に至るまで、人類は悪魔サタンの容赦のない攻撃に存亡の危機を繰り返してきたことが記されています。しかし、いよいよ小羊なるイエス様によって完全に勝利したと記されています。私たちはこの岩なる主を信じ、寄り頼む者です。

「見よ。新たなる教会をシオンに建てよう。

栄冠を与えるその教会の土台石を私は選んだ。

彼を信頼する者は、失望することがない」(アライブ訳・第一ペテロ2:6)

私たちが勝利に導くのは神様ご自身です。私たちが頑張って悪魔に勝利するものではありません。私たちが頑張るのは、主を信頼し、主に従うことです。主は新しい教会を建てようとしています。教会は主によって導かれた私たち自身の集まりです。私たちがお互いのために祈り合う時、主の勝利が現わされていくのです！